

文化財建造物保存修理研究会(仮称)設立趣意書

我が国における文化財建造物の本格的な保存修理は、明治三十年に開始されて以来、連綿として続けられてきました。日本の建築技術の大きな特色は、我が国の風土とともに発達し、受け継がれてきた独自の木造の建築技術にあります。この間に蓄積されてきた伝統的かつ歴史的な技法・技術に関する膨大な知見は、今日数多くの文化財建造物の保存修理に活用されているところです。

しかし、近年、これら伝統建築の保存修理を取り巻く状況は、修理方針の多様性や修理技術・材料の進歩などにより大きな変化が生じ、新しい技術の応用や材料の開発などによる質的な向上が求められてきています。また、近代化遺産をはじめとする新たに保存の対象となった木造以外の建造物についても、保存修理技術に関する調査研究や技術開発が急務となっています。

さらに、文化財建造物の社会的意義に関する認識が向上し、安全性の確保への配慮が特に求められる今日、文化財建造物の特殊性に配慮した耐震調査や構造補強、保存活用計画の策定など、新たな課題が提起されています。

文化財建造物の保存修理に求められているこれらの課題の解決のためには、保存修理事業の実践と理論の往還や相互の情報交流を定期的に行うことにより、専門や分野を超えて保存修理の体系的な理論の確立と普遍化を行い、これに裏付けられた修理技術の高度化を図っていく必要があります。また、修理現場の最新の知見や新材料の活用など、新しい修理技術の開発を推進するとともに、これまでの修理技法の検証・モニタリング、類例の調査・整理等を行い、保存修理技術のさらなる向上・発展を図っていくことが重要です。

このため、私たちは、研究者、設計監理技術者、修理技術者等、文化財建造物の保存修理に関係する各分野の者が相集い、保存修理に関する学術研究団体として「文化財建造物保存修理研究会(仮称)」を設立することとしました。文化財建造物の保存修理に関わる多くの方々はこの研究会に参加していただき、文化財建造物の保護に貢献してまいりたいと考えています。

本研究会の趣旨に対し、皆様方のご理解とご賛同をいただきますようお願いいたします。

平成二十六年十一月

設立発起人

横濱国立大学教授	大野敏
公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟理事長	落合雄
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所長	亀井伸
長岡造形大学教授	木村治
工学院大学教授	後藤英
京都女子大学教授	斎藤俊
公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事長	佐々木重
京都工芸繊維大学教授	清水敦
徳島文理大学教授	清水真
京都府教育庁指導部文化財保護課建造物担当課長	鶴岡典
文化財修理技術保存連盟理事長	西澤政
東京大学大学院教授	藤井恵
東京大学大学院教授	藤田香
名古屋工業大学大学院教授	藤田和
文化庁文化財部参事官(建造物担当)	横村健
ものづくり大学准教授	山田善

(五十音順)